

都小 研小 会報

・発行所
・東京都小学校社会科研究会
・東京都新宿区四谷2-6
・発行人 石井正広
・編集人 西谷秀幸

東京大会の成果を継承・発展させ、 十年後の全国大会の基盤をつくる

東京都小学校社会科研究会会長
新宿区立四谷小学校校長

石井正広



昨年度に引き継ぎ、令和七年度の会長を務めることになりました石井正広と申します。

令和三年度の中教審答申「令和の日本型教育」で示された個別最適な学びと協働的な学びの一体化を踏まえた授業改善への試行が学校現場で広がりを見せています。これは、社会科が大切にしてきた問題解決的な学習における個の学びの成立と同一であり、授業観の転換が期待されています。

また、学習指導要領改訂に向

けて、大臣諮問を受けて、文部科学省中央教育審議会教育課程部会教育課程企画特別部会において、様々な審議が続いています。前回改訂を鑑みると、令和九年の改訂・告示になる見込みです。

このような状況の中、令和七年度開催の第六一回全国小学校社会科研究会協議会研究発表会で「社会とつながり未来を創る子供の育成」社会的現象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する社会科学習」の研究主題のもとに積み重ねた研究成果を継承・発展させていくことが大切だと考えます。

そこで、都小社研の活動目標を「東京大会の成果を継承・発展させ、十年後の全国大会の基盤をつくる」とし、そのために、次の四点を取組の重点として活動をすすめていきます。

- (1) 大会研究主題を継続し、研究成果を周知することを通して、研究をさらに発展させる。
- (2) 学年部会ごとに研究主題と研究内容を設定し、創意・工夫した実践的な研究を推進する。
- (3) 十年後の全国大会を見据えた人材育成のために、都小社研独自の研究員制度を立ち上げて基礎的な実践研究に取り組み。
- (4) 夏季研究会でのワークショップや地区委員会での講演及び情報交換を通して、東京都の社会科教育の裾野を広げる。

各学年部会の研究活動及び都小社研独自の研究員の活動の今年度の主な研究活動予定は以下の通りです。

■夏季研修会

造船・コンテナ 埠頭7/28
製紙7/29 製鉄所7/30
酪農7/31 ガス8/1

■夏季研究会

八月二十二日(金)
新宿区立四谷小学校

■第六十三回全国小学校社会科研究会協議会群馬大会

十一月十三日(木) 十四日(金)

■都小社研研究員研究発表会

一〜二月(未定)

■研究発表会

二月二十日(金)

新宿区立四谷小学校
今後の研究活動の様子や成果は、ホームページ等を通して積極的に発信していきますので、どうぞ活用ください。

ご勇退役員あいさつ

多くの方々に感謝します。

前東京都小学校社会科研究会理事
前小金井立小金井第一小学校校長 浅野 正道

新規採用の東村山市で、指導主事の梶井貢先生のご紹介により、都小社研の一部員となりました。それから永きに渡り、多くの方々のお力添えで、様々な役割や立場を経験することができたこと、とてもありがたく幸いに思います。

特に、東京大会には、授業者、基調提案者、さらに、会場校長として深く関わる中で、多くの研究仲間を支えられました。この間、調査研究部だけでなく庶務部として、コロナ禍を何とか乗り切るべく努めた時期もありました。

東京大会第二会場として、都小社研の先生方はもちろんのこと、小金井第一小学校の素晴らしい教職員と共に、主体的な学びの授業をつくり上げられ、誇りに思います。そして、常に考え続けていたことは、次代を担う人材の育成です。翌年、新設の研究員担当として、大会での学びを還元できました。石井会長をはじめ、今後の人材育成を皆さんに託します。

結びに、梶井貢先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

社会科と共に

日本橋小学校を会場に開催した東京大会は、私にとって忘れられない一日となりました。

どうすれば子供たちは主体的に「問い」を追究するのだろうか。問題解決的な学習で授業を展開していく社会科にとって、最も重要なテーマです。しかも、社会科を専門としない教員もできる分かりやすい授業づくりを提案する。果たして大丈夫だろうかと不安は募るばかりでした。

そのような中、会場校を全面的サポートした都小社研の底力を目の当たりにすることになりました。連日、都小社研の先生方が来校し、時間を忘れて研究に取り組んでくださったのです。会場校の思いを受け止め、授業として具現化していく苦労は、並大抵のことではなかったはず。都小社研の皆様の献身的な支援のお陰で、東京大会では素晴らしい発表ができました。大学教員となった今、都小社研の一員として社会科教育に関われた幸せを噛みしめています。

令和七年度 各 部 活 動 計 画

庶務部

部長 小須田 哲史

庶務部は、各部との連絡・調整を行い、都小社研の諸事業が円滑に進められるようにするとともに、各地区部長・地区委員と連携を深め、研究が一層充実するよう取り組んでいます。

○定期総会、月例研究会、地区部長・地区委員会、夏季研究会、小中社研合同研究会の開催案内の発送や資料作成、会場準備、受付、運営

○各学年部会の研究授業の出張依頼の作成・発送

○次年度に向けての会の運営

○「役員・部長・副部長・全小会事務局・地区部長・地区委員名簿」の作成

○研究発表会(2月20日(金))の運営計画作成、会場運営
庶務部業務の見直しと効率化を進め、都小社研諸事業の更なる充実を図ってまいります。

会計部

部長 森 進一

定期総会にて、令和6年度の決算報告および、令和7年度予算について報告し、ご承認していただきました。また、昨年度の活動では、新たに研究員制度

事業部

部長 尾上 健二

も始まりましたが、都小社研の皆様のご理解ご協力により、無事に予算を執行することができました。改めて感謝申し上げます。

令和7年度につきましても、適正な執行に努めてまいります。引き続きのご協力をお願いします。

渉外部

部長 木村 道人

渉外部では、各地区の研究動向をまとめた「各地区のすがた」や研究紀要の発行、全国小学校社会科研究協議会の窓口業務及び関東地区小学校社会科研究協議会の事務局を担当しています。

また、東京都小学校社会科研究会の地区委員及び各地区の研究部長、OB・OG会員への連絡や会報等の発送。さらに、関小社研理事会への参加と会報の発送等。及び、全国大会開催案内と全小社研会報の発送等の支援を行っています。

〈今年度の主な業務〉

*「各地区のすがた」発行

*「研究紀要第三十六集」発行

*全小社研理事(部長が担当)

*関小社研事務局

*OB・OG名簿の更新・管理

*定期総会、会報、全国大会等の案内送付(都内・OB・OG)

*夏季研究会への運営協力

「酪農体験会」

静岡県富士宮市にある松下牧場での酪農体験(搾乳・牛舎の掃除、餌やり体験、バターづくり・酪農家の話)や朝霧乳業の施設を見学します。

○八月一日(金)

「東京ガス 暮らしを支える エネルギーインフラ」

都市ガスの安定供給に向けた取組を学ぶため、供給指令センターを見学します。午後はヤママーのシヨールームにて災害対応の省エネ機器を見学します。

日頃の社会科学習に生かせる教材開発に、ぜひ夏季休業期間を活用してご参加ください。

広報部

部長 西谷 秀幸

広報部は、会報の発行とホームページの充実を目指して活動を行います。

都小社研会報は、第二〇九号(都小社研各部活動計画等)、第二一〇号(群馬大会報告等)、第二一一号(都小社研研究発表会報告等)の発行を予定し、全小社研会報は、第一一四号(群馬大会に向けて等)、第一一五号(各都道府県の動向等)の発行を予定しています。

また、都小社研ホームページは、契約業者による「スクール・

ウェブ・アシスト」のリニューアルに伴い、昨年八月に全面リニューアルをしました。都内のみならず、全国各地の先生方に役立つサイトになるよう、掲載内容や掲載方法を見直しながら、改善を図って参ります。

全小社研

事務局長 矢部 洋一

六月六日(金)東京都千代田区の日本出版クラブで第一一八回理事会が開催されましたので、ご報告いたします。今年度の役員・事業等が承認され、全国大会の案内もありました。

令和七年度役員

会長 石井 正広(東京)
副会長 中嶋 太(東京)

石川 篤司(北海道)

中嶋 裕明(青森)

野間 義晴(神奈川)

河本 隆明(石川)

後藤 健之(名古屋)

左海 克彦(大阪)

河野 隆(広島)

永井 武(徳島)

今村 靖(鹿児島)

伊藤 智樹(神奈川)

風見由起夫(東京)

草刈あずさ(東京)

大須賀慎一(東京)

矢部 洋一(東京)

吉川 正(東京)

鈴木 優介(東京)

手塚 成隆(東京)

調査研究部 活動計画

部長 島田 学

一 研究主題

令和5年度に開催した全国小学校社会科研究協議会研究大会
東京大会での研究を継続・発展
させるため、研究主題を引き続
き「社会とつながり未来を創る
子供の育成」とし、学習指導要
領実施状況調査の結果等を踏ま
え、各学年における実践上の課
題を明確にしながら授業改善の
方策を検討していくために、学
年部会毎に副主題を設定して研
究を深めていきます。

小林 資郷(東京)
須藤 敏之(東京)
島田 学(東京)
西谷 秀幸(東京)

「よりよい社会を創造する児童を育てる社会科学習」
を高め、社会参画意識を育てる学習の充実」

二 全国大会

第六十三回 群馬大会
十一月十三日(木) 十四日(金)

三 個人研究論文の募集

・ 締切 令和八年一月十四日(水)
・ 主題 「学習指導要領の具現化を目指す社会科指導の工夫」

四 調査・研究・刊行等

・ 会報百十四号(八月発行予定) 百十五号(二月発行予定)
・ 研究論文集録 第六十一集(三月)

五 次年度全国大会開催の案内

第六十四回 徳島大会
令和八年十一月十九日(木) 二十日(金)
令和八年度 京都大会
令和九年二月四日(木) 五日(金)

理事会に引き続き、文部科学省教科調査官、小倉 勝登先生による教育講演会が開催され、今後の国の動向を注視する必要性や、児童の資質・能力の育成に向けて、社会科指導のポイントをご指導いただきました。

る教材

・ 人の営みや働きに共感できる教材

○授業づくりの手だての工夫

・ 主体的に問いを追究する工夫
・ 見方・考え方が働く学習活動の工夫
・ 子供の学びを確かにする評価の工夫

今年度は、各学年部会において、これら授業づくりの各要素を焦点化したり、関連付けたりしながら、各学年の実践上の課題を踏まえ、研究の重点を設定して授業研究に取り組みていきます。

四 主な取組

① 学年部会の研究活動
都内各小学校より推薦された研究推進委員が学年部会を組織し、年間2本程度の授業実践を行い、研究を進めていきます。

② 夏季研究会の開催

都内外の教員を対象に、各学年の実践紹介、講師による講演などを通して、都小社研における研究内容を発信するとともに、社会科の授業力向上を目指します。

③ 研究発表会の開催

授業公開及び研究発表を行い、都小社研の一年間の研究成果を発信します。

④ 令和七年八月二十二日(金) 新宿区立四谷小学校

・ 講演会 澤井 陽介 先生 (大妻女子大学大学院教授)
・ 課題別ワークショップ
・ 学習問題と学習計画
・ まとめと表現活動
・ 板書の仕方
・ 教科書の使い方
・ 学年別ワークショップ
・ 二期以降の単元の実践紹介等
・ 学年部会
・ 一般参加者を交えての授業研究会授業の検討

を立ち上げました。今年度も十五名が応募し、都小社研監事の校長の指導の下、実践的な研究を行います。

・ 研究員総会
・ 研究主題の設定及び授業実践の検討

・ 授業実践
・ 研究員研究発表会 (令和八年一月下旬予定)

⑤ 授業実践シリーズ

「新しい授業の創造」
第二十七集の作成
学年部会の実践、都小社研研究員の実践を収録します。

⑥ 都中社研との合同研究会

都内小・中学校において、小中の接続を意識した社会科授業を実現するために、都中社研と合同研修会を実施します。今年度は都中社研に研修を企画していただきます。

⑦ 全国小学校社会科研究協議会

研究大会への参加
令和七年十一月十三日(木)、十一月十四日(金)
群馬大会
課題提案 五年部会

④ 東京都小学校社会科研究会

研究員制度
次の東京大会の開催を見据え、人材育成の一環として、昨年度に都小社研独自の研究員制度

令和6年度 収支決算書

単位=円

1. 収入の部

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Rows include 会費, 懇親会, 寄付金, 雑収入, 前年度繰越金, その他, 合計.

2. 支出の部

単位=円

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Rows include 研究大会, 研究調査, 研究用図書, 研究成果刊行, 合計.

次年度繰越金 ① ¥1,310,000.- ② ¥1,310,000.- = 0円

令和7年度 収支予算

1. 収入の部

単位=円

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 備考. Rows include 会費, 東京都教職員研修センター, 寄付金, 雑収入, 前年度繰越金, 合計.

2. 支出の部

単位=円

Table with 5 columns: 科目, 予算額, 備考. Rows include 研究大会, 研究調査, 研究用図書, 研究成果刊行, 合計.

令和7年度 都小社研 役員・監事・部長・副部長 一覧

1. 役員

Table with 4 columns: 職名, 氏名, 所属校. Rows include 会長, 副会長, 現役顧問.

2. 監事・会計監査

Table with 4 columns: 職名, 氏名, 所属校. Rows include 監事, 監事, 監事, 監事・会計監査, 監事, 監事, 監事, 監事.

3. 部長・副部長

Table with 4 columns: 役職, 氏名, 所属校. Rows include 庶務, 会計, 調査研究, 事業, 渉外, 広報, 全小社研.

あ と が き
昨年十二月二十五日、中教審において「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」が諮問され、いよいよ次期学習指導要領の改訂に向けた議論が始まります。都小社研では、国の動向を見極めながら、次期学習指導要領のもとで、習得の東京大会を見据えて、東京都の社会科教育を更に充実させていくことを、また、広報部では、改善を通して、都内及び全国の多くの先生方に役立つ情報の発信に力を尽くして参ります。